



巻頭言

次世代を開く日本化学会へ

●
山本 尚 Hisashi YAMAMOTO

平成 28 年度・29 年度日本化学会 会長



本年 5 月 24 日の社員総会・理事会での承認を経て、日本化学会会長に就任しました。任期の 2 年間、副会長、理事の先生方のご協力を得て、日本化学会の一層の発展に尽力して参ります。よろしくお祈りいたします。

様々な時代背景の下、化学会はこれまで不断の成長を遂げてきました。しかし、情報化による社会情勢の激変に対応し、化学会は今後の飛躍に向けて抜本的変革を迫られています。

(1) 化学会には世界で活躍できる我が国の若手研究者が、存分に活躍できる機会と場を提供する責務があります。21 世紀は化学の世紀です。十分には周知されていませんが、最近の大半の新規特許は化学絡みです。分子を縦横に使いこなすことで、新しい科学技術の扉を開くことができます。この魔法の鍵を若い研究者が会得し、そして様々な場所で、新しい発見・発明を楽しむための支援をします。さらに、中学・高校の若い人たちが化学に親しむ機会を増やすための施策を、各地の支部活動と連携しながら推し進めます。

(2) 「日本化学会英文 2 誌」と「化学と工業」の一層の質的向上が望まれています。今世紀に入って、学会誌の役割は大きく変わろうとしています。国際的な化学情報のビッグ・データ化は、今後ますます顕著になってくるでしょうが、それに伴い雑誌の在り方に大きな変化が予測されます。この流れに、化学会として柔軟に対応し、我が国がこの潮流を先導することが期待されます。すでに、次々と有力国際誌のプリント版出版が停止されています。早晚、日本化学会雑誌の印刷版の停止と、同時に Web 上での一体化は必然でしょう。長期的展望からは、Web 上で日本化学会英文誌が flag ship journal として 1 誌に統合され、日本化学会の国際的存在感を飛躍的に向上させなければなりません。会員が世界に自慢できる JACS, ACIE, RSC に並ぶ JCSJ の誕生を期待します。

(3) 前会長の強力なご指導の下、化学会は、年会の英語化に積極的に関わり参りました。しかし、化学会には同時に日本語の文化的伝統維持の責務もあるでしょう。ドイツ化学の伝統を維持するために、ACIE のドイツ語版を今も赤字出版する Wiley 社の気概には感服しています。日本化学会として、例えば、発表は英語で、学部教育は日本語で、大学院教育は英語でなどの適切な区分けを提案し、ローカルとグローバルを両立させる日本の化学を誕生させます。

(4) 強力で、機動的な化学会へ。今後の大きな改革には、化学会の増え続ける膨大な事務を行っている化学会事務局スタッフの積極的支援と助言が成功の鍵となります。しかし、増え続ける業務に適切に対応するには、1 つの新規事業開始には、複数の既存事業を停止する覚悟が必要となるかと存じます。また、長期的には、化学会の定常的な収益確立も必須です。ダイナミックで透明性の高い強力な事務局を再構築します。

以上、いずれの提案も痛みを伴うものです。会員皆様はもとより、官民挙げて、物心両面からの積極的ご支援を伏してお願いいたします。

© 2016 The Chemical Society of Japan